



佐倉市立美術館 & 佐倉順天堂記念館・旧堀田邸

【日 時】 11月11日(火) 7:30 安房自然村 7:35 平砂浦ふれあいショップ
7:50 館山市役所4号館駐車場(旧館山市民センター)
17:30~18:00 頃帰着予定

【入館料・昼食・保険代】 2,000円 【定員】 先着30名(会員限定)

- 【見学地】
- ① 佐倉市立美術館「浅井忠と弟子展Ⅱ」
美術講座「倉田白羊の児童自由画教育と富崎尋常小学校」(仮題)
講師：木邨かおり氏(佐倉市立美術館学芸員)
 - ② 佐倉順天堂記念館(千葉県指定史跡)
 - ③ 旧堀田邸(国重要文化財)

◎ 倉田白羊 くらたはくよう (1881-1938)



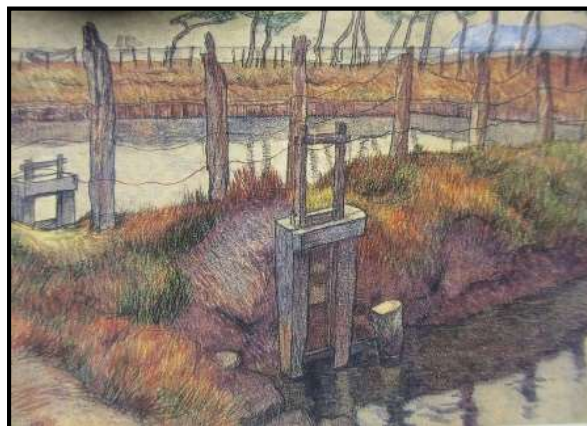
埼玉浦和生まれ。14歳で親戚の浅井忠の門下生となり、1898(明治31)年に東京美術学校入学、黒田清輝や浅井忠の指導を受け、1901(明治34)年主席で卒業。1916(大正5)年の朝鮮・満州旅行を契機に、風景画へ転向。房総写生旅行中であつた根本村の小谷英子と結婚して、1917(大正6)年より館山に居住。『布良』『那古の山』などの水彩画を描き、美術教育にもたずさわる。

それまでの美術教育は模写中心であつたが、フランスに留学した版画家の山本鼎(かなえ)は、児童の感性で表現する自由画教育を日本に導入し、友人の白羊もまた、周囲に集まってきた小学校教師らに自由画教育を奨励した。千葉師範学校で研究会が開かれ、県下に自由画教育が広まった。房州北条で自由画展が開催され、鼎も来房し意見を交している。

1922(大正11)年、白羊は鼎の要請を受けて信州上田へ移住、日本農民美術研究所の副所長に就任、本格的な農民美術の教育を始める。上田移住後も時々房州を訪れ、美術教育に尽力した。指導を受けた富崎尋常小学校(昭和2年3月)卒業の吉田源七らの作品が同館に所蔵されている。

妻英子の兄は、明治期に房州根本から米国・モンレーに移住し、器械式潜水アワビ漁に成功した先駆者の小谷源之助・仲治郎兄弟である。

白羊は、『三太物語』で知られる館山在住の文学者で画家の青木茂と懇意にしており、館山美術会の設立に関わつた可能性もある。青木の遺族が寄贈した館山市立図書館所蔵の『水門』は、大房岬が見える湊川河口部で描いたと推定され、背景の館山湾に浮かぶ帆船は、その帆型より日本初の洋式船「富崎丸」(石油発動機付帆船・豊崎政吉造船)と考えられる。



【主催】NPO法人安房文化遺産フォーラム／青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

参加申込書 11月11日(火)

2014ヘリテージまちづくり講座：佐倉バスツアー

(TEL:090-6479-3498 FAX:0470-22-8271、メール:awabunnka@awa.or.jp)

名前 _____

電話 _____

◆佐倉順天堂記念館 【千葉県指定史跡】

順天堂は、長崎に遊学した蘭医の佐藤泰然が江戸から佐倉に移り住み、1843(天保 14)年に開いたオランダ医学の塾。当時としては最高水準の外科手術を中心とした実践的な医学教育と治療が行われ、幕末から明治にかけて全国各地から多くの塾生が参集し、その多くが明治医学界において活躍した。泰然の養子・佐藤尚中(たかなか)＝山口舜海は、長崎でオランダ軍医ボンベに学んだ後、系統的な医学教育をとり入れ、明治時代になると新政府から大学東校(現東京大学医学部)の最高責任者として招かれた後、御茶ノ水に順天堂医院を開業した。なお、館山市出身の資生堂創業者の福原有信は、大学東校で西洋薬学を学んでいる。

一方、佐倉の順天堂は養子・佐藤舜海(＝岡本道庵)が受け継ぎ、佐倉順天堂として医療活動を続けた。現在残っている建物は、1858(安政 5)年に建てられたものと、その後拡充された施設の一部である。1975(昭和 50)年に「旧佐倉順天堂」として千葉県指定史跡に認定され、建物の修復とともに 1985(平成 60)年から「順天堂記念館」として一般公開された。しかし建物の老朽化が進んだため、1999(平成 11)年から 2001(平成 13)年にかけて再び修復整備が施され、2001(平成 13)年 10 月 2 日から再公開となった。



◆旧堀田邸 【国重要文化財】

最後の佐倉藩主であった堀田正倫の邸宅として、1890(明治 23)年に建築された。庭園を含む一帯が、1997(平成 9)年に佐倉市指定文化財(名勝)となり、1999(平成 11)年秋に大規模な補修復元工事を終えた。2001(平成 13)年に千葉県指定文化財(名勝)に指定され、2006(平成 18)年には「旧堀田家住宅」として国の重要文化財(建造物)に住居部5棟(座敷棟・居間棟・書斎棟・玄関棟・湯殿)と門番所・土蔵が指定された。「つば造り」や「火打ち貫」といった伝統的な和風建築と西洋建築の工法が混在しており、明治初期の過渡期の様子をうかがい知れる。明治期の庭師、伊藤彦右衛門による庭園部分は「さくら庭園」として常時開放されており、自由に見学・散策ができる。

1897(明治 30)年に佐倉に農事試験場を創設した堀田正倫は、安房北条で促成栽培などの農業指導や殖産興業を推進していた万里小路通房伯爵と交流が深く、堀田の妻伴子は万里小路の長女である。



予告

明治に活躍した館山ゆかりの人びと②

渋沢栄一と福原有信をめぐる

12月7日(日) 13:30～15:30 館山商工会館大ホール

講師：井上潤(渋沢史料館館長)・愛沢伸雄(NPO 安房文化遺産フォーラム代表)

500近い銀行や企業を設立し近代経済の礎を築くとともに、公益を追求した渋沢栄一は、教育や福祉の分野でも大きな足跡を残している。虚弱児童の療養施設として「東京養育院安房分院(現在の船形学院)」を設立し、生涯院長として尽力した。渋沢の渡米時には、館山病院二代目院長の穂坂与明が随行している。

10:30 見学会：渋沢栄一の書による磨崖碑(船形学園玄関前集合)